

令和2年度

第1回新城市総合教育会議
会議録

令和2年9月 第1回新城市総合教育会議 会議録

1 日 時 9月3日(木) 午後2時から午後3時35分まで

2 場 所 新城市役所 本庁舎 4階 4-2、4-3会議室

3 出席者

穂積亮次市長 和田守功教育長 花田香織教育長職務代理 原田純一委員 安形茂樹委員
夏目みゆき委員 村松 弥委員 青山芳子委員

4 同席した職員

三浦企画部長 片瀬教育部長 請井教育課長 安形学校教育課長

5 書 記

佐藤教育総務課副課長

6 議事日程

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 少人数学級の実現について
 - (2) オンライン学習の推進と職場改善について
 - (3) 新型コロナウイルス感染予防対策について
- 4 その他

次回総合教育会議 令和2年11月26日(木) 午後1時30分

閉 会

1 開会

○職務代理者

皆様、今日はお忙しい中御出席いただきありがとうございます。

定刻になりましたので、令和2年度第1回新城市総合教育会議を開催させていただきます。

新城市総合教育会議運営細則の第2条第2項に従いまして、教育長職務代理者が司会を行うこととなっております。私が会議の進行役を務めさせていただきます。どうぞ皆さん、御協力くださいますよう、よろしく願いいたします。

それでは、開催に当たりまして、市長から挨拶をお願いいたします。

2 挨拶

○市長

それでは皆さん、改めましてこんにちは。

令和2年度に入りまして、第1回の新城市総合教育会議でございます。台風の影響で足元が悪い中ではありますが、皆様方にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

新学期が始まってというのが枕詞になる時期なんです、新学期が始まってはいるんですが、1学期の終わりと2学期の始めが続いているような、全く異例の事態の中での学校の新学期となっております。学校現場においても、また社会教育の場におきましても、新型コロナウイルス感染対策に多くの労力が割かれ、またそれぞれの担当の皆さんが神経を使いながら、感染拡大防止のために努力をいただいているかと思えます。

市内の小中学校、また社会教育施設におきましては、いわゆる集団感染のような事例が発生することなく今日まで来ていることに、改めて関係の現場の皆さんに感謝を申し上げたいと思っております。

愛知県での緊急事態宣言も解除となり、第二波と言われるものの、ピークアウトがされているというものの、これから秋、冬にかけては季節性のインフルエンザが併発するなどが心配され、医療体制をはじめとしたさまざまな体制について、一層の力を入れていかなければならないかと思えます。

そうした中で、現在、9月議会が始まっているところでありますが、この総合教育会議でも度々議論を重ねていただきました学校給食の共同調理場の事業がいよいよ具体化してまいります。これについて、様々な議会審議などを経て市民の皆様へ改めて御理解等を求めていくことになろうかと思えます。

さらに、政府が進めるGIGAスクール構想、ICT教育の進めではありますが、それに伴う予算措置等を講じてきております。この1年間ぐらいの中で、これまで非常に不十分でありましたICT教育の環境整備がある程度は整っていくと思えますが、ただ、ハードとしての機器、通信施設が整ったとしても、それを運用するスキル、あるいはインターネット環境での家庭間の格差などもありますので、しっかりと対応をしていかなければならないというふうに思っています。

それから、この場をお借りしまして教育委員、現在職務代理のにおかれましては長年、教育委員を務めていただきました。この11月28日をもって任期満了となり、退任を迎えられるそうであります。今、この教育委員の中では一番ベテランの中に入れておりましたが、様々な面で積極的に御提案や意見を出していただきまして、教育委員会の議論の活発化に寄与いただいたところに、様々な教育行政

について御高見を賜ったことに改めて感謝申し上げ、慰労を申し上げる次第でございます。

簡単ではございますが、総合教育会議の開催に当たりまして、市長といたしましての挨拶とします。よろしく願いいたします。

○職務代理者

ありがとうございました。

続きまして、教育委員会を代表いたしまして、教育長から挨拶をお願いいたします。

○教育長

改めまして、こんにちは。

先日、道端でヒガンバナを見つけました。これで猛暑の日々も終わって活動しやすい秋が訪れるのではないかと期待しております。

今日は、2020年度最初の総合教育会議であります。今回は、コロナ禍による学校の長期休業、あるいは文化・スポーツ活動の長期自粛という、日本の戦後教育史上かつてない経験を強られる中での開催となります。ウィズコロナ、アフターコロナで求められる新しい生活様式の中で、教育の使命である、未来を作る人材をいかに育成するかということで、今を生きる私たちが試されているような気がします。

今年度の教育方針といたしまして共育2.0を掲げて、10年後の2030年を目指す教育を目標といたしました。これまでの10年で積み上げてきた参観・参加型の共育の上に新しい時代の地域共同参画型の共育を築こうとするものです。

ソサイアティ5.0の超スマート社会の到来に向けて、AIやRPA、IoTや5Gが一般化する時代を生き抜く力を備えた子供を育むためには、多様性、ダイバーシティと機動性、モビリティに富んだ教育環境が必要です。

幸いというか、悲しいかなというか、今回のコロナ禍によって日本の教育ICT利用率がOECD加盟国37か国の中で最下位であること、1学級当たりの児童生徒数、あるいは教員1人当たりの児童生徒数が最多人数レベルであるという実態を思い知らされました。そんな中で、GIGAスクール構想の迅速化が図られ、新城市でも予算化し、その環境整備を始めているところでございます。

また、小学校高学年の教科担任制や少人数学級の計画的整備が政府でも話題に上がるようになりました。いずれにいたしましても、今後10年の共育2.0のイメージを絵に描くとき、中教審特別部会が言うように、これまでの対面指導とICTのハイブリッド化が学校教育にとって不可欠なものとなります。また、特別な支援を要する子供や外国人の子供、経済的困窮に置かれた子供たちが増加する中で、指導の個別化と学習の個性化で個々の生きる力を育み、それが地域に足場を持って人と人がつながることで、共育2.0の新たな地域社会の構築が可能になるのではないかと思います。

こうした、時代や社会の要請を正面から受け止めて、日本、新城の未来を担う子供たちの学びの環境をどのように整えるかということにおいて、本日、議題としております少人数学級の実現とオンライン学習は欠かせません。そして、ウィズコロナ、アフターコロナ社会における感染予防対策は必要不可欠です。市長さんをはじめ教育委員の皆様様の忌憚のない御意見をいただきまして、共育2.0を推進するエネルギー源になればと思います。

コロナ禍による自粛生活の中で委縮することのないように、でき得る可能性を広げるスタンスで臨みたいと思います。今日はよろしく願いいたします。

3 協議事項

○職務代理人

ありがとうございました。

それでは、さっそく議事の進行に移りたいと思います。

10分程度で皆様からお話しただいて、その後10分から15分の討議という形で進めたいと思います。最後にまた皆さんからフリーで意見をいただけたらと思いますので、進行に御協力ください。

それでは、3、協議事項の(1)、少人数学級の実現について、内容について説明をお願いいたします。お願いします。

○教育委員

それでは、私から少人数学級の実現について提案させていただきます。

この件につきましては、過去2年、2回提案をさせていただいておりますが、また今回挙げさせていただきました。

昨年の提案時に、市長さんから、少人数学級の教育的エビデンスは、教員の総意はあるか、また校長会からの要望であるかという質問をいただいたのですけれども、すぐに答えることができませんでした。それで、この間、少人数学級の実現のための根拠は何だろう、新城の教育のよさというのはどこにあるのだろうと、機会あるごとに考えてきました。

新城の先生方は、共育の精神を念頭に置いて、一人一人の子供に向き合って懸命に学習指導、生活指導に力を尽くしてくださっていると思います。その実践をさらに後押しする施策はないだろうかと考えていまして、やはり、そのときに一番思いつくのが少人数学級の実施ではないか、それも、このコロナ禍だからこそ必要ではないかということが見えてきたと思います。

市内の小中学校の1学年1クラスの在籍数は、2人から40人のところまで、大きな幅があります。また、多くの学校には30人以下の学級というところがやはり多いです。そうすると、35人以上の学級というのはわずか数校です。通う学校によって人数の差が大きくあるのですから、わずか数校の学級の増設を行うことで全ての学校で少人数学級が実現することになるのです。また、現在行われている働き方改革の取組やコロナ禍での新たな教育手法を後押しするためにも、少人数学級の実現が必要になると考えます。

少人数学級の実現の折、今以上に一人一人の子供に向き合う時間を増やし、数値では計り知ることのできない多くの経験を積む時間を増やしてほしいと思います。また、個別性に応じた指導の充実により、基礎学力の向上へもつながっていきますし、充実した学校生活を送ることができると思いますので、三度提案をさせていただきます。

まず初めに、今回の提案理由です。

1つは、コロナ禍で改めて少人数学級の必要性を再確認したことです。

もう1つは、1学級の児童数の差を縮め、きめ細やかな新城教育を実現してほしいという観点から挙げさせていただきました。

それでは、ここからは改めて、1学級35人以下になった場合の教育的効果はということで、これは繰り返しのようになってしまいますので、御覧いただいたとおり、一人一人に応じたきめ細やかな働きかけができるということで、より確実な学びにつながる。教師にとっても子供にとってもメリットは大き

いと思います。

以上のことは、教育効果として数値化された根拠になるものではありませんが、1年間同じ学級で一斉授業が中心である現在の学校教育においては、少人数学級の効果として真っ先に挙げられることだと思います。

次は、2番目の、新都市の教職員の意見として、教員の意見の根拠になると思いましたが、新都市教育白書2019年版から、少人数学級の必要性がわかる事柄を提示させていただきます。

まず初めは、働き方改革の観点からです。

勤務実態のデータを見ますと、勤務上、悩んだり困ったりしていることは、の質問に対して、生活指導であると答えた方が51%、次いで教科指導、進路指導と続いています。

次に、勤務時間の超過理由では、約6割の方が教員不足による業務の集中を挙げています。そして、教育の向上のために配慮してほしいことは、の記述の中に、質の高い授業を行うための専任教員の増員や、心や体力にゆとりを持って子供に接することができるように、教員ベースの増員を挙げています。そして、こうした超過勤務など多忙化解消のためには、提出文書の軽減、行事の精選、校務文書の配分が必要だということが挙げられていました。

また、特別支援の観点から見ますと、よりよい支援のために望むこととして、約9割の方が教員の増員を挙げ、6割の方が1学級の人数減を望んでいることがわかりました。

次は、子供の意見はどうかを見ますと、子供の姿のデータから、学校が楽しいという子が8割から9割いますが、その理由として、友達と一緒にいることが楽しい、部活、勉強と続き、反対に楽しくないという子が9%から12%います。その理由は、勉強が苦手、友達との悩みがある。また、授業に真剣に取り組んでいるかという質問に対しては、取り組んでいるという子が9割以上いますが、真剣に取り組んでいないという子が七、八%はいて、その理由は授業内容がわからない、授業内容に興味を持ってない、考えることが苦手という結果が出ていることから、この少数の子供にきちんと指導ができる時間と心のゆとりが必要だと考えられます。

最後に、これからの新城教育に必要と感じることの質問に対して、このような数字として挙げられてきております。

これらのことを実現するために、既に始められていることは取り組まれています。行事の見直しや事務の簡略化、会議内容の精選、部活の取組など、多くのことが実践されています。また、授業研究も頻繁に行われ、多忙な日々をやりくりし、自主サークルなどの取組も行っていると聞いております。また、ICTの設備の充実も年々図られてきてはいます。そのほかの質問の中から、健康面での不安があってもままならない状況であったり、休暇の未取得もあつたりすることもあげられていますので、心身ともに安定した状況で働けるかどうか危惧されているところです。

以上のことから、業務の効率化のためにも、健全な働き方ができる勤務環境を整えるためにも、教員数の拡充が必要だということがわかると思います。

次に、新たにお伝えしたいことです。3番のコロナ禍で確認できることというのを御覧ください。

この中において行われた分散登校では、図らずも少人数学級が実現し、そのよさを確認できたのだと思います。7月、8月の中日新聞の、少人数学級に関する記事を読みましても、少人数学級の実現がいかに必要であるかがわかったのではないかと思いますので、1つの根拠にしたいと思います。

まず、コロナ禍で行われた分散登校において、少人数学級が実施されたことを受けてよかったこと

は、一人一人のペースに合わせて指導できた、理解度などを確認でき、心にゆとりをもって接し授業ができた、子供の様子がよく見え、一人一人に目が行き届きやすくなった、子供自身の「見られている」という意識から、集中力が高まったということでした。

次に、負担に感じたことはということで、感染予防対策としていろいろなものが挙げられておりますけれども、コロナ禍において、やりたくてもできないことは新たにやらなければならないことが押し寄せて来て、子供たちだけではなく、先生方も大変な毎日を過ごしていることがわかりました。

これからの学校生活は、コロナ予防対策として新しい生活様式を取り入れながら学習を進めていくことになるのですから、まさに新しい学習の仕方、学校生活の送り方を作り上げていく必要があるのではないかと思います。そのために、コロナ時代への対応として、一人一人に丁寧に目をかける教育、少人数学級、グループ学習、ICTの活用、一斉授業だったりグループ学習をしたり個別授業をしたりという、そういう組み合わせをした学習、授業内容の創意工夫、個別指導の充実、教科教員、専科教員の増員、学習指導員等の配置などが必要だということが見えてきたようです。

昨年度からの臨時休校により、様々な場面で、今まで見えていなかったことが見えたり、本当に必要なものは何かが見えてきたりしたと思います。また、今まで以上に個別性が増す時代に対応できる環境が必要になると思います。

9月1日の新聞では、様々な理由があるかと思いますが、コロナが心配で学校へ行かせられない子供、欠席している子供が多くいることも報じています。また、コロナ予防対策として新しい生活様式を取り入れたことで今までとは違う学校生活を送らなければならなくなったことは、個々の受け止め方や順応性もあるかもしれませんが、子供にとってもストレスとなっていくでしょうし、先生にとっても今まで以上に様々な個別という対応をすることが必要になっていると思います。

そのために、先生方だけが今後も奮闘するのではなく、できる限り支援を、体制が必要になってくると思います。その1つが少人数学級の実現になるのではないかと思います。

また、全国の動きとしても、教員養成と予算措置の大きな課題がありました。少人数学級の実現は全国の悲願でもあり、以下の団体から要望が出されています。

以上を踏まえたところで、4. 少人数学級実現のための手立てとして、今年度の学級数を見ますと、以下のとおりです。ここの黒く太くなっているところが該当される場所だと思います。

令和3年度から1学級35人にするためには、小学校で2人、中学校で1人必要になります。しかし、中学校の学級数を増やすということは、全ての教科で教科担任制の中学校では、1学級分の授業数が増えるということで、現行の職員配置のまま担任を1人増やすだけでは全ての授業時間を補完することは大変難しく、大きな負担となることも改めて対策を講じる必要があると考えられます。

そこでまず、児童数の多い2校の小学校の実現を提案させていただきます。この実現により、コロナ禍で頑張る子供たちの教育環境の充実と、先生方が心身共にゆとりを持って指導ができることでさらなる新城の教育の向上を期待して提案させていただきます。よろしくお願いいたします。

以上です。

○職務代理者

ありがとうございました。

ほかに付け加えて発言されたい方、お見えになりましたら挙手をお願いいたします。

○教育委員

新城の教育の特色といったら何かと言うと、やはり、小さな学校が多くて1クラスの人数が少ない。これは愛知県下の中でも特筆すべきことではないかと思うんです。つまり、一人一人の子供にきめ細やかな教育がなされている。これが新城市の教育の大きな特徴だと思うんです。

中で、例えば千郷小、それから東郷西小学校のように人数が多いところで言いますと、1クラス40人近く、あるいは40人にほとんど届くような感じで授業を行っているところがあるわけですから、この差を解消することによって、きめ細やかな教育を特色とする新城の教育が満遍なく全ての学校で行うことができる。そういう意味からしても、先ほど委員さんのお話されたことは新城の教育のよさをさらに広げていくものになるのかなというふうに思います。

以上です。

○職務代理者

ありがとうございました。

では、市長のほうに。お願いいたします。

○市長

前回以来の宿題でもあり、課題であります。

委員さんから改めて今日、レポート、提案をいただいて、特にコロナ禍の状況という前回とはまた違った状況を踏まえての御意見でありました。貴重な、非常に大切な観点がたくさん含まれていると思います。

私どもの市政の経営会議におきましても、コロナ問題を踏まえながら、この少人数学級の在り方については議論をしているところであります。前回のときに、私が少し、少人数学級のよしあしということを、そのものの結論に行く前にいろいろと踏まえる必要があるのではないかと。実際、教育効果としてどうなのか、教員の負担としても本当に軽減できるのか、そうしたことも触れ、表面的に少人数になりきめ細やかな指導ができるというふうなほど簡単なものではないだろうということも含めて、異論を喚起させていただきました。それを踏まえての、今日の御発言だったのかなと思います。

一方で、いわゆるコロナ対策という差し迫った問題も含めて、文科省等でもこの検討が始まっているかと思いますが、教員の増加ということが伴うことから、ずっと課題であります。財政サイドとの駆け引きがこれから続くのかなと思います。

全体として、日本の学校教育の在り方が質量ともに、このコロナ対策で、ICTの遅れを含めた状況が国民的にも露呈をしたということ、それでなおかつ現場が保っているということは、とりもなおさず教員集団の皆さんの頑張り、また地域や家庭の協力、こういうものがあることによって持ちこたえているものがたくさんあると思います。

それをさらに一押し、後押ししていくこと、それをさらに促進していくことの中で、この少人数学級の効果については効果を見極めて具体的な方針を明確にする時期が近づいているなど思っております。

今、委員さんのお話にあった2ページの4のところにある具体的な学校の状況でありますけれども、これを導入したとした場合、一方では、なおかつ学級数、学級の人数数の差というのはまだまだ続いております。さらにこの問題を掘り下げていくと、今の集合学習の在り方そのものの問題点、それから、この間出てきていますいろいろなインクルーシブ教育、あるいは発達障害の皆さんへの継続的な

ケア、こうしたいわゆる個々の発達状況、ここの状況に見合った指導という問題と、それから学齢で一律に輪切りをした形で学級を編成していくというその在り方そのものにも当然出てくる課題ではないかというふうに思いますので、それへの考え方を、教育委員会としても、また我々新城市としても持ちながら進めていくべきことではないかなというふうに思います。

それから、前回のときに、エビデンスということを盛んに申し上げまして、これはいろいろ、ネット上、あるいは研究発表上いろいろな事例があるようでありますが、いわゆる少人数学級が学習効果に即効果を及ぼすということの定説はまだないと思いますが、一方では、では習熟度別の学習はどうか、それから、今、小学校でも進められようとしている教科担任制、それから教育長が言っております複数担任制、こうしたものの組み合わせ、あるいは連携の中で考慮しなければならないと思っております。

それからもう1点、コロナ禍を踏まえて思うことは、これから日本の学校の在り方についていろいろ問題点が出てくる、それから教員の質・量の確保が非常に大きな課題になってきますので、ある意味では教員をどういうふうに質のよい教員を確保していくのかということでの、地域間の、言い方は悪いですがけれども人の取り合いということに現実にはなってくるだろうと、ならざるを得ないと。そうしたときにできる状況があるならば、一步踏み出して、今、先行投資という考えも含めて教員を確保していくという、そういう考え方もあり得るのかなと。そんなふうなこともつつらつつら思っているところであります。

これについては校長会等でも議論をしていただきたいと思っておりますし、その点での大きな全体的な合意というんですか、これで何を解決していくのか、それによって次はどういう課題に取り組んでいくのか、こうしたことを見据えたものにしていきたいと思っております。

学校については、皆さん、全ての人が思い入れが強いから、時として、情緒的に感情的な、表層的な議論になりがちになります。そうした中で、教育行政をつかさどる教育委員会において明確なビジョン、指針、あるいは考え方を整理していただいて、また私どもの市政、市行政のほうに投げかけていただけるとありがたいかなと思います。

以上です。

○職務代理者

ありがとうございました。

前日も市長に投げかけていただいたことで、大分教育委員会のほうでも議論をいたしました。今回、改めてさせていただいたんですが、今、市長に御指摘いただいたことについてもまだまだ考えていかなければいけないし、こちら準備しなければいけないのでということも考えてまいりました。

なかなか答えが出てこないところではありますが、先行投資についての可能性についてもお話いただきましたので、この先、もっともっと私たちも考えていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

続きまして、オンライン学習の推進と職場改革について、お願いします。

○教育委員

今、少人数学級のところで意見を言わずに終わってしまったのですが、市長さんの決断次第だと私は思っております。愛知県のいろいろな自治体で独自に35人学級、あるいは30人学級の実現のために動いています。新城市はわずか2校、あるいは3校の対応で少人数学級が実現できる場所ですので、

ぜひお願いしたいと思います。

では、オンライン学習について、よろしくお願いします。昨年、ICT関係で校内LANの早期整備をこの会で要望したところが、1年後には既に大きく状況が変わっているということで、変化の速さに驚いているところです。

お手元の資料を1枚めくっていただいたところに、文科省資料があります。こちらを先に説明させていただきます。これは令和2年6月11日、初等・中等教育局が出された検討用資料ですが、現在、今後の状況についてわかりやすく書かれていましたので、紹介させていただきます。

まず、(1)のところで、ウィズコロナの段階におけるオンライン教育の在り方です。基本的な姿勢、方針として、児童生徒の学びを保障するため、ICTを活用しつつ、教師による対面指導と遠隔・オンライン教育との組み合わせによる新しい教育様式を実践する。具体的に取り組む事項として、①から⑥まで上がっております。下線は私が入れましたが、その部分だけ少し触れさせていただきます。一定の要件の下、オンラインを含む家庭学習を授業と同様に評価することを明確化するということが第一に入っています。今後の方針が分かるかと思います。

②のGIGAスクール構想の加速によるICT環境の早期整備については、1人1台端末の早期実現、家庭でもつながる通信環境の整備により、児童生徒の学びを保証するという内容です。

③は、学習支援コンテンツに関する情報提供の充実ということで、デジタル教材や動画などの学習支援コンテンツに関する情報提供を充実するということです。

めくっていただいて、(2)のところに今度はポストコロナ、これはコロナが収束した段階での方針が示されています。下線のところだけ読みます。教師が先端技術を活用し、児童生徒に対話的、協働的な学びを実現することが必要である。ICTを活用しつつ、教師が対面指導と家庭や地域社会と連携した遠隔・オンライン教育等を使いこなすということが基本方針になっています。

取組事項として、学習履歴を活用するということ、②のところは遠隔授業やオンデマンドの動画教材等を取り入れた授業モデルを展開するということ。遠隔授業についてはさらに、海外の児童生徒と交流するということも述べています。

それから、⑦のところでは、学校で学びたくても学べない児童生徒（病気療養、不登校など）に対する学びの保障ということがうたわれています。

最初のページに戻りますが、これまでのところで、ICT環境整備は国家プロジェクトということで進んでいると理解できると思います。ICTを活用した授業は今後基本になっていくと受け止めるべきではないかなと思います。そのための環境整備を今進めていただいているわけですが、①、②の環境整備が求められているようです。①にはオンデマンド型（録画）一方向オンライン、例えば、今整備していただいているeライブラリーもそうですが、この形です。②は同期型（LIVE配信）、双方向オンライン学習というものです。例えば、テレビ会議を考えるとよろしいかと思いますが、こういったリアルタイムでの対面の授業が求められるようになるようです。②につきましては、今の段階では対応が非常に難しいと思います。双方向型というと、通信環境や保護者のサポート、それから子供の集中力、トラブルへの対応等が問題になっています。それから、教師側の準備や練習も大きな負担になるのではないかとされています。今の段階では、当面はオンデマンド型で、学校・市教委が勧めるコンテンツを紹介していく形で対応していくのが好ましいのではないかなと考えています。

次に、新城市の場合の家庭学習のための環境整備というところです。学校は、環境整備が順調に進

んでいると思いますが、問題は家庭学習の場合です。市内の児童生徒のネット環境がない家庭が65家庭あるそうです。約3%。この家庭をどうするかが非常に大きな課題になると思います。

対策の方向としては、貸与、貸出しをすることです。W i - f i 整備は家庭負担になるかと思いますが、このタブレットを貸し出す。W i - f i 環境がない場合にはモバイルルーターを貸し出すことが考えられます。ポケットW i - f i というものですが、これを市で確保する必要があるのではないかなと思います。

通信費につきましては家庭負担が基本だろうと考えられますが、文科省は要保護家庭には補助をするとうたっております。その点は念頭に入れる必要があろうかと思えます。通信費は家庭負担が当然基本ですが、自治体によっては通信費を市で負担しているところもあります。こここのところは、今後いろいろ検討していく必要があろうかと思えます。

また、通信費への協力が得られない場合の学びの保障をどうするかということも課題になろうかと思えます。対応として考えられることは、放課後等の時間で、学校内で端末を使用許可することです。児童クラブを含めてですが、以上のことをどうするかは今後の検討課題だろうと思えます。

次に、ソフト面をどうするかが重要な問題になろうかと思えます。市長さんも先ほど運用面への対応についておっしゃられましたが、先生方、子供たちが喜んで使えるものを導入しない限り、せっかくハード面をそろえても無駄になろうかと思えます。校長会、学校の要望に沿った整備をしていただくことが必要です。

情報推進委員会で、端末に導入するソフトアプリの検討をされ、まとめたものを出されております。それを紹介させていただこうと、そこに記載させていただきました。

「主体的・対話的で深い学び実現」のための魅力あるソフトを導入ということ。必要な要件として、ドリル型、協働学習型、授業支援型、この3つが不可欠だということで、既に導入をさせていただいているものもあります。検討結果のところに書いてありますが、ドリル型のeライブラリー、これは3月までに導入をさせていただいております。それから、協働学習型、協働学習型というのはグループ学習と考えていただければわかりやすいと思えますが、そのためにコラボノートEXを3月まで入れていただいております。

新たに授業支援型としてロイロノートを新規導入していただくようお願いしている段階だと思えますが、この情報推進委員会で検討されたのが、ミライシードというアプリケーションソフトです。B E N E S S E という進研ゼミだとかチャレンジで知られている会社で作っているものです。ミライシードは、この3つの機能を全て有するアプリなのだそうです。これをぜひ導入したいと情報委員会からの要望です。

利用されるかどうかは、アプリのよしあしで決まるものだと思います。子どもたち、先生方に魅力があって、工夫できるものでないと使われないと思えます。特に先生方は提供したものをそのまま使うだけでは抵抗感があると思えます。教師のスタイルといいますか、工夫を加えて作っていくという形のアプリでないと使われないのではないかなと思います。

このミライシードの特徴は、いろいろありますので詳しく言うととても時間がかかります。簡単に言いますと、1つのID・パスワードでログインできること、大変スムーズに子供たちも入っていくことができること。それから、動画配信や児童生徒とのコミュニケーションが可能であるということ。そのアプリの中身は多岐にわたっております。いろいろな教材が取りそろえられております。

情報教育の担当者の懸念として、子供の端末がスムーズに動くこと、動画が見られること、これに不具合があり、使い勝手が悪いと致命的になってしまうということです。業者にはぜひサポート体制をきちんとすること、システムエンジニアをつけていただきたいということです。オンライン教育を全小中学校で推進できる体制を整えるために、ぜひ予算をしっかりとつけていただきたいということです。

以上、オンライン教育についての必要性を申し上げましたが、まだ説明が足りないところは後で補足させていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

○職務代理者

ありがとうございました。

それでは、付け加えて発言をしたい方とか、これはお伝えしておきたいということがある方がお見えになりましたら、挙手をお願いいたします。

○教育長

今回のコロナの休校ということ、3か月間にわたったのですが、その中で新城市はeライブラリーがもう数年前から入っていたということで、東三河の各市と比べましてもそういった面では進んでいました。それぞれ、各学校ともID等を児童生徒に配付して進めているんですけども、子どもが、さあやろうと思ったときにつながりがスムーズにできなかつたりして、最初は興味関心を持ってやっただけけれども、何度アクセスしてもつながらない状況が続く、アナログのほうがいいということでアナログに軸足を移した学校もありました。一方、時間をずらしていつもアクセスが容易にできるようなアドバイスをし、しっかりと文字情報を使って双方向に進めた中学校もあります。そういった中学校では、9割以上の生徒がしっかりとeライブラリーに取り組んでおりました。したがって、使い勝手という部分が非常に大事ですし、もう1つは、学校の教職員の立場でいうと、いわゆるアナログ部分の教科書等で指導する、それだけでもなかなか大変なだけけれども、プラスアルファ、オンラインの部分でどれだけ使いこなせるかということ、これも大きな課題になってきます。それから、特に操作上のところで効率よくやることについては、やはり専門的なノウハウを持った人が必要になります。

いずれにしろ、文科省も進めているいわゆる対面型に加えてオンラインでということのハイブリッドということは、これからどうしてもやらなくてはならないことであるとは思っています。そんな中で、現況の小中学校のいわゆる教職員の人数でいくと、かなり設備が整っても難しいという状況もあるのではないかと思います。ただ、今後また休校等になったときには、オンラインを進めていかないと子供の学習がストップしてしまうということで、大きな懸念がございます。

それからもう1つは、これはオンラインとは関係ないんですが、不登校の児童生徒がなかなか減少しません。横ばい状態です。こうした子供たちにとって、もしオンラインで一人一人の子供に適切な支援を差し伸べることができると、その子供は別に学校へ行かなくてもちゃんと学習の保障ができるのではないかと思います。不登校の子供たちにとっては、やはり集団で学習するということが不得手な子供たちも結構多いと思います。ですから、そういった子供たちにはオンラインを使って双方向で結んでいくことが非常に効果があるのではないかと思います。

それから、まずはやはり基本として、オンラインにする、あるいはデジタルにするというのだったら、教科書もデジタル教科書になってこないとその威力を最大限に発揮することはできないと思うん

です。今、現行ではデジタル教科書といっても、単にアナログの教科書を画面に映しただけのものをデジタル教科書と言っているのが、大したものではないんです。そこからネットにつながっていろいろな探求ができるようになれば、まさに子供たちの学びの世界がどんどん広がるものになるんですけども、なかなかそこまでは行かない実態があります。

いずれにいたしましても、アナログとオンラインの双方をどのようにハイブリッドでつないで、子供たちにとってプラスになるような教育支援をするかということが大きな課題になるのではないかと思います。

○職務代理者

ありがとうございました。

それでは、市長からお願いいたします。

○市長

今の教育長から、既に導入しているeライブラリーへの現状の評価などもいただいて、なるほどなと思って聞いておりました。そしてまた、先ほどの委員さんの提案について、これは、実際には国を挙げてICT教育の環境整備へ進めていくというのは間違いなく進んでいくと思いますので、市としてもこれについては遅れを取らないように、またある面ではチャレンジできるように環境を整えていきたいなどは思っております。

今、使い勝手の問題や通信環境の問題が出ましたけれども、デジタル教科書というものも本当の上でのデジタル教科書になっているかどうかということを含めて、試行錯誤はどうしても続くのかなという気がいたします。これで一挙に問題が解決するというほど簡単なことではないと思うので、試行錯誤しながらつなげていくしかない、それで次の子供たちによりよいものを残せるように継承をしていかなければいけないかなということを強く思っております。

以上です。

○職務代理者

ありがとうございました。

本当に、これからいろいろ問題がわかってくると思いますし、解決策というのがあるところから選択するのではなくて、作っていかなければならないものだと思いますので、また一緒に御協力をお願いしたいと思います。

○教育長

もう1つ。

教職員の間では、あるいは一般市民の間では、オンラインというのはなかなか普及していないんですけども、子供たちの世界を見ると、もう小学生のときから、女子生徒はT i c T o cをがんがんやっていますし、男子の子供たちはゲームでオンラインをがんがんやっています。ですから、そこに何か教育的な要素を加えれば、子供はすぐに適応していくと思うんです。だから、この子供と大人のギャップというのこれからオンライン教育を考えるときに、何かそこにヒントがあるし、教職員のほうでもう一步踏み込む、そういう姿勢が必要になる部分があるのではないかと思います。

○職務代理者

ありがとうございました。

ちょっと言わせていただきましたかったことなんですけれども、資料の中で、3%、65家庭、W i - f

i の環境がないところということだったんですけれども、これがどういう御家庭なのかといろいろ考えるんですが、場合によっては経済格差の反映される場所だったりするのかもしれないです。

このICT教育というのが習熟度に合わせて自習ができたりということで、格差を埋める可能性があるのと同時に、そういった経済格差ですとか、もしくは保護者等のICTに対する理解の違いによる格差が拡大するのとかというところに、現状、あるのではないかなと思います。

公教育ですので、そういう格差に対する配慮を私たちも忘れてたくないなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

続きまして、(3)の新型コロナウイルス感染予防対策について、お願いします。

○教育委員

よろしくをお願いします。

題のコロナの話に入る前に、医療の現場で日々子供を見ている立場からの、1番の少人数学級制度のことに絡めたお話を少しだけさせていただきます。

今のお子さんたちというのは、小学生ではなくて、こども園の年代の子たちから言えることなんですけれども、一昔前の子供たちと比べて、年齢不相応に情報が入り過ぎてしまう。これが一番問題。でも、それはインターネットやらゲームやらスマホのおかげなのか、功罪の罪の部分だと多分に僕は思っていますけれども、心の発達に従っていろいろな情報が入ってくる、これが従来の学びだったわけなんですけど、そんなことをしなくてもどんどん自分の精神の発達以上の情報が入ってきてしまうと、様々な問題が起きてくる。これは大変だなというお子さんたちを、僕もよく見るんですけれども、それこそ、言われる多様性というのはそういうことも含まれると思いますし、もちろん多国籍もそうだと思うんですが、一昔前と比べて、子供たちの小さいころからの生活環境の変化があり過ぎてしまって、本当に個性が多様化している。これを一昔前のように40人学級で、右向け右と言えばみんな素直に右を向いてくれるというような学校教育を続けていくというのはどう考えても無理だと思いますし、学校というのは、もちろん大事な学習をする場ではあるんですけれども、そういう子たちに社会性、協調性、こういうことを学んでいってもらう場でもあるわけですし、ぜひとも、この少人数学級ということに関しては、今35人というお話が出ておりましたが、僕的には、特に小学生に関しては20人、あるいは25人学級ぐらいのきめ細かさで、あるいはその中には市長さんがおっしゃるような習熟度別の授業があってもいいと思いますし、そういうことをしていくための人材確保というのを、少人数、大半が新城市の場合は少人数の学級が多いわけですので、一歩進めたら、ここに、資料のとおりでいきますと1人常勤講師500万円、2人、小学生だけだとしても1,000万円踏み込んでいただけると、またひとつ将来につながるのかもしれないなと思いました。ちょっとお話が戻って申しわけありませんでした。

それでは、本題のほうです。

新型コロナウイルス感染予防対策についてということでお時間をいただいているんですけれども、現状での情報が主になりますが、その中で少し、市長さん、市の方、教育委員会の方をお願いしたいことも含めてお話をさせていただきたいと思います。

日本国内において、感染者の数というのは、報道のとおり日々減少しつつあります。ただ、流行が再拡大するのとかどうか、テレビでは盛んに秋以降再拡大の可能性が高い、インフルエンザと同時流行するみたいな危機をあおる報道が日々あるところですが、そのとおりにならないことを願うばかりな

んですが、ワクチン、あるいは治療薬、これらに関してはまだまだ時間が要る段階です。

ワクチンについて言うと、現在、世界中で130ぐらいの団体が開発を進めています。日本も、その中には何社か入っています。その中で、30ぐらいのグループが第3相試験に入ろうとしている段階なんです。この第1相、第2相、第3相というように試験段階があるわけなんです。この第3相試験というのが一番大事でありまして、通常は年の単位をかけて何万人という単位で有効性と安全性を検証する、これが第3相試験、第3段階の試験なんですけれども、ここから先が大変で、大半のお薬は、具体的に言うと8割のワクチンやお薬はここで落ちていきます。2割が生き残る。生き残れるかどうかの判定が下されるのは、平均五、六年かかる。それを、先頭を切ったのがロシアですね。今日もまたアメリカの話が出ていましたけれども、第3相試験を始めると同時に一部接種を始めるという報道が出ていますが、特に日本という国は、健康な人が受けた治療というか予防薬で被害が出たときのアレルギーが非常に敏感な民族です。日本国内でワクチンが医療従事者から先に打っていく、その次は高齢者、何か順番が決まりつつあり、公費で賄いますみたいな話が出つつありますが、果たしてどれだけ安全性、安全なものが入ってくるのか、いろいろな国のワクチンがばらばらに入ってくるようになって、それらを医療関係者の方々から順番に、医療関係者というのはコロナを受け入れている人たちですよ、そういう病院の医療関係者の方々から順番に打っていかれるわけなんです。例えばある病院は打ち始めますが、アメリカのあるメーカーのものを低い濃度から打ち始めて、大丈夫だったら少し濃度を上げて、少しずつ、30人ぐらいでやっていきましょうという、まさに実験です。そういうのをやっていきましょうという段階です。

治療薬に関しても、ほぼ有効だと思われるものが今後開発されるということは、これは治療薬に関しては当面ないと思っています。インフルエンザみたいなもので、あれは、ああいうお薬は本当に特殊で、タミフルとかリレンザとか、ああいうのは本当に特殊な分野であって、大半のウイルス、風邪のウイルスに対する特効薬というのは、これはないですよ。コロナも一緒だと思っていただいていたと思います。

ということは、現状、一番の対策というのは予防行動を怠らないでください、これに尽きるというわけになります。幸い、子供の感染率というのは低いままで。日本も低いです。同時に、重症化率もほかの年代の方得比べるとやはり低いです。が、8月31日、この時点における日本全体の死亡率というのを見ますと、コロナ感染症はやはり1.9%あります。インフルエンザが、実際の死亡率というのが、人数でいうと毎年2,000人から3,000の方がインフルエンザで命を落とされるんですけれども、コロナで言うと、現状死んだ方というのは1,327名、これは昨日の時点ですね、率に直すと、8月31日時点で1.9%。インフルエンザが0.001%です。率でいうとこれだけ違います。なおかつ、70歳以上ということになりますと、これが一気に17%、80歳以上となると30%を超えております。コロナ感染症。

ちなみに、インフルエンザでも70歳以上の人というのは桁が1つ変わって、0.003%ぐらいの方が亡くなるんですけれども、全然桁が違います。200倍ぐらいの違いがあります。

昨日の報道にもありましたけれども、8月1か月間で見ると死亡率というのが0.9%。でも、70歳以上の方だと8月1か月だけで見ても8.1%の死亡率、これが8月でも見られています。怖いウイルスであるということに変わりはありません。

新城市では、核家族という家庭ももちろん少くないんですが、二世帯、あるいは三世帯同居、こういう御家庭が非常に少くないです。高齢者も同居している地域があるということを考えますと、

やはりこども園とか学校、こういうところでのクラスター発生というのは何としても抑えないといけないのだろうなと思っています。

新しい生活様式というのがもう言われております。三密を回避するとか、予算を取っていただいてフェイスシールドが学校に配られたり、マスクをしたり、手洗いをしたり、室内を喚起したり、そういうことがされていますけれども、一番はやはり、日々、皆さん、子供たちが過ごす場所、衛生環境を整えてあげることが大事なことなんだろうと思います。

もう1つ、この夏、今年はコロナ騒動で学校検診が後ろにずれて、つい最近になって学校検診の結果を持ってくるお子さんたちが、この8月の終わりから見えているんですけども、やはり、急に太る子たち、肥満、もうバナナ太りみたいな、大人だけの話ではなく子供もかなり、急に、ほかは何ともないんですけども、成長曲線の体重だけがびよんとなってしまうていたから、それで医者にかかれとって受診票を持ってくるお子さんが非常に多いです。と同時に、やはりけがも多ければ体力のほうも前年度よりも下がっている子たちも、少なくはないようです。

と同時に、やはり先生方、特に自主期間中、非常に精神的につらかったということもあれば、今現状、先生方も感染対策、生活環境の整備ということにはかなり気を遣ってみえます。一番の仕事は学校で子供たちに勉強を教え、いろいろなことを共に学ぶことが先生の、教師の本来だと思いますけれども、日々の清掃、あるいは新城市におきますとトイレ掃除は子供たちはもうやらないで先生が全部やっていますという学校も、現状あるようです。

掃除もそうなんですけれども、消毒業務、こちらでの先生たちからの一部負担軽減、外部への委託、あるいは地元の方の協力もあり得るのかもしれないですけども、そういう形をもって消毒業務というのもお願いすることができないだろうか、これが1つ、お願いになります。

そしてもう1つ、あつては困るんですが、もし感染が市内で広がりつつある、蔓延しつつあるということになった場合には、消毒のみならず、先ほど少し言ったトイレ掃除、こちらもぜひ当該学校に限らず新城市全体として外部に委託できるような手配、予算立てをしてもらえないだろうか。

前にも少しトイレのことでお話をしたことがあるんですけども、やはりトイレというのは非常に菌、ウイルスの温床になります。ここの整備というのも、先生方の職務軽減という意味もあるんですけども、感染拡大を抑えるという意味では非常に、感染症の場合には大事になってくるのではないかと思います。

そしてもう1つ、もし患者さんが発生してしまった学校が、大規模校であるといいんですけども、小規模校の場合だと、先生方というのは大半が濃厚接触者になってしまいます。濃厚接触者になってしまった方々が学校の消毒業務に当たるようなことがないように、そのときにはこういう応援をいただける、あるいは業者がこういうように入るという体制を、今からぜひ整えておいていただけたらと思っています。

いずれにしても、お金、予算的なことがかかることですが、特に、子供は本当によほど重症化しなそうなんですけども、この重症化しないという理由は、報道でも言われているように、交差免疫という現象があつて、子供が冬場にかかる風邪のウイルスの中にこのコロナウイルスに対する免疫をある程度、日本人やアジア人は特に持っているものですから、普段は重症化しにくい交差免疫のせいで防いでくれている、あるいは発症もしないというのは間違いなさそうなんですけれども、いざ子供にはやってしまうと大変なことになりますので、ぜひ、その辺の配慮をお願いしたいと思ひまして、ほかの

余分なお話もさせていただきましたが、情報提供も含めてお願いします。

○職務代理者

ありがとうございました。

付け加えての御発言があればお願いいたします。

○教育委員

今日の中日新聞に、この修学旅行についての記事が載っていました。愛知県の場合で言うと、津島市は全中学校の修学旅行は中止、豊田市は日帰りの修学旅行にするというような記事が出ていましたけれども、新城市の場合は今のところ各学校の意向に任されているという状況であるんですが、委員さんの立場から言うと、修学旅行についてはどのようにお考えですか。

○教育委員

行く場所は選ぶべきだと思いますが、僕は、新幹線の移動にしてもバスにしても、かなり感染対策は取られています。なおかつ、そう大人数ではない学校が大半ですし、受け入れ態勢の側のほうでどうぞと言ってくれるのであれば、行かせてあげたいなと思います。

ただし、全親御さんが了解をしてくれた上でということが1つあるとは思いますが、行っていいと思いますが、いかがでしょうか。半分個人的な意見です。

○職務代理者

ほかに、よろしかったでしょうか。

では市長、お願いいたします。

○市長

委員さんから、教育委員として、また医師として、日々診察の状況等を見ながらの、加えての御発言でありましたので、大変貴重なものとして聞かせていただきました。

清掃業務のことが最後絞られてまいりましたので、市の現在のお話をお伝えしますが、今、冒頭申し上げましたように9月議会が始まっておりまして、補正予算第5号という提案をしております。この中で学校の消毒業務についてはすべて委託に予算計上をさせていただきました。これについては、従来からいろいろ学校の先生方の負担増をどう軽減するのかということで議論もありましたし、議会の中での議論もありました。特に、教育長をはじめとしていろいろ心配をされておられたので、今回につきましては、先生方の負担軽減ももちろんながら、感染拡大を防止するための徹底的な対策という観点から、専門の事業者へ委託をすることにいたしました。

これについては、私ども市は、最終的には市長査定の中で判断をさせていただいたとともに、学校教育課に来ていただいて考え方をお伝えしたところでもありますので、承知をしておいていただきたいんですが、これについてどなたに委託をするのかということがいろいろ議論になりました。地域の中では、学校のことだから地域の方たちが協力してやってあげてもいいよという意見もあったようですし、それから、シルバーさんに委託をしたらどうかということもあったんですが、最終的に判断をさせていただいたのは、学校でやる以上はこれも教育活動として見るべきだ、見てほしいと。先生方が消毒活動をしていて大変だから、それは誰かほかの人に任せ方が いいのではないかと、直接はこうということなんですが、ただ、学校に、教職員と生徒で構成されている学校に日常的に別の方々が入ってくるわけですね。しかも、コロナ対策ということで入ってこられる以上は、やはり1つの教育的な効果をそこから逆に生徒たちに伝えていけるようにしてほしいと。

それは結局、専門の事業者さんが入ってくるということは、清掃・消毒に対する専門的な知見を持ち、それに対して必要な装備を持ち、スキルを持って、それで当たっていくわけですから、その姿を日常的に日々生徒たちが見るか、そういう時間帯かどうかは別として、やはり何度か触れるだろうと思います。そのときに、先生方が子供たちにそうした仕事の大切さ、それをプロの仕事としてやっている人たちがいるという、それによって今の安全が保たれているということ、医療従事者もそうですし、上下水道をやっている清掃業務、そのほか、あるいはスーパーのレジ打ちでもそうだけれども、そうした業務があるから何とか持ちこたえているというのがあって、そこに対する尊重する気持ち、感謝の気持ち、そしてそれを、今、教師、学校、先生方も含めて子供たちの安全を守るために、そういう専門的な方々に入ってもらっているということの環境面の問題というのをぜひ伝えてほしい。

ですから、いわゆる手間仕事だからほかの人に頼もうよという、そんな簡単なことではなくて、清掃業務ということを1つの仕事としている人たちの姿を見せることによって、現在の環境、それに対して大人社会がどう対応しようとしているのか、それを言葉でわかる生徒もいればわからない生徒もいると思うけれども、押しなべてそれをぜひ伝えてほしいと、そのために予算措置をしたということは、学校教育課の方に来ていただいて私から直接お伝えしましたので、教育委員会にもそれはまた御承知おきいただきたいと思います。

トイレも、含まれますね。消毒部分についてはそういうことで、毎日業者さんに入っていてやっていただくということですので。そういうことです。

○職務代理人

ありがとうございました。

それでは、挙げてありました協議事項、3つをここで終わらせていただきたいと思います。

続いて、4のそのほかということで、ここは加えてというか、フリーで結構ですので、御意見がありましたらお願いいたします。

では、私からよろしいでしょうか。

前々からずっと、学校の部活動のことを懸案事項として挙げてまいりました。今作成中の新城市教育振興基本計画という計画の中で、今後、どういう形で部活を移していくかと考えています。

簡単に申し上げますと、学校の部活動という形ではない、もう少し広いエリアで考えるですとか、人材の活用というのも、学校の人材だけに頼るのではなくてということで考えを進めております。

これはいつを目指しているんですか。新しい部活動というか、新城クラブの計画のほうは。

○学校教育課長

まだ定かではありませんけれども、現段階では令和5年度に向けて準備を進めていくということを考えております。

○職務代理人

ありがとうございます。

今までずっと続けてきた部活動ですし、マンパワーにしても施設にしても学校というものを頼りにしてきましたので、すぐに移れるわけではないんですが、そこまでいろいろなところを協力していただかなければいけないと思いますし、予算面での御協力もお願いすると思いますので、5年度ということで、それぐらいを目途にしてということで、どうぞよろしくお願いいたします。

ほかに、御発言はございませんか。

では私から、ちょっと申し上げられたらと思うんですが、今、学校の教科書というのはUDフォント、ユニバーサルデザインフォントを使っています。これは、いろいろな障害がある子もいますので、誰でも教科書が読みやすいようにと。それで、デジタル教科書、本当に教科書をそのままというところが現実でもあるんですが、一方で、ユニバーサルデザインということでは、識字障害の子供ですとか視覚障害の子供ですとか、そういう子供たちに何とか情報を伝えられるようにと努力をしてくれています。ユニバーサルデザインということがいろいろなところで重要視されてきているんですけども、教育委員会の関係のところもこれから考えていかなければいけないかなと思うのですが、行政が出されるような文章って、大体明朝とゴシックというふうに昔から決まっているかと思えます。カラーユニバーサルデザインはいろいろなところで導入されているかと思うんですけども、フォントに関しましてもそういうふうな配慮が少しずつ進んでいったらいいなということ、実は教科書のことを勉強しながら感じました。よろしくをお願いします。

ほかに、ございませんか。

では、市長から総括的に頂戴してもよろしいですか。

○市長

皆さんから熱心な御議論をいただきまして、ありがとうございます。

いずれの議題も、現在のコロナ対策を踏まえながら、同時にポストコロナを見据えた対応、対策にも通じていくかと思えます。当面、感染拡大、本当に徹底的に考慮しながらやっていかなければならないだろうと思っておりますが、全体状況としては、総理の辞任に伴って政権の在り方が変わってまいりますし、それに伴う対策、また感染症の規定でいわゆる2類から外すようなという議論もありまして、実務的にどのように動いていくのか、まだ情報が随分来ていない状態ではありますが、県、保健所等との連携を密にしながら、特に学校現場については細心の注意を払ってやっていかなければいけません。

また、教育委員の皆さんにおかれては、引き続き高い見地から学校、あるいは社会教育全般について研究を深めていただき、また市行政との連携も引き続きとっていただければありがたいと思えます。ありがとうございました。

○職務代理者

よろしいですか。

○教育長

ありがとうございました。

今日の中で、学校のほうで即取り組みたいということで、先ほどのお話の中で、トイレ掃除について、特にやはり低学年の子供たちはトイレの床面、あるいは便器面に非常に近い位置に口、鼻等が位置するので、学校によっては子供にトイレ掃除をさせないという学校もあるのですが、早急に全、特に小学校の、低学年の子供たちがトイレ掃除をするという作業から外れるような対応ができるようにします。縦割り等でほとんどの学校がやっているんですが、そこでひと工夫設けて、感染防止のためにということを周知していきたいと思えます。

それから、中学校の部活動については、今、学校教育課と生涯共育課等で検討をしているところですけども、今後の中学の生徒数の減少を見ますと、早急にそういう体制を整える必要があると思えますので、学校現場、あるいは社会体育に関わる方々とともに新しい方向性というのをしっかりと見

出していきたいと思っております。

○職務代理者

ありがとうございました。

本日は貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございました。

最後に、次回の総合教育会議ですが、令和2年11月26日の午後1時30分から、この下の3階製作会議室で予定しております。皆さん、よろしく願いいたします。

以上をもちまして、令和2年度第1回総合教育会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。

閉会 午後3時35分